医療被ばく研究情報ネットワーク(J-RIME)が、2025年7月7日に J-RIME 参加学協会と協力して、最新の国内実態調査結果に基づく放射線検査の診断参考レベル (DRLs) を発表しました。

2025年版では、調査票の様式がモダリティ間で統一され、施設側の回答がしやすくなり全国からのデータ回収率が向上し、ばらつきの少ない、より精度の高い線量基準が設定できるようになりました。標準化された調査手法が、DRLs の信頼性向上に大きく貢献し、放射線検査における患者の被ばく線量の最適化と安全性、診療の質向上に繋がります。

<https://j-rime.qst.go.jp/index.html>

※医療被ばく研究情報ネットワーク (Japan Network for Research and Information on Medical Exposure; J-RIME) は、国内外の機関や専門家と協力して、医療被ばくに関する様々な研究情報を収集し、これらの情報をお互いに共有する組織。

医療法施行規則の改正 (2020年) により、医療被ばくの管理が法的に明示され、DRLs の活用が推奨されるようになりました。今回の改定により、医療機関は自施設の線量を DRLs と比較し、必要に応じて撮影条件や装置の見直しを行うことが期待されます。

<主なポイント>

- ・CT (部位別)・X線・マンモグラフィ・歯科用撮影・IVR (疾患・手技別) などモダリティごとに新しい DRL 値が詳細に設定された。
- ・SPECT/CT・PET/CT など、ハイブリッド型検査にも対応できるようになった。
- ・小児CTや小児心臓CTなど、年齢・体重別の細分化が進み、より精緻な線量管理が可能となった。
- ・DRL は線量限度ではなく、各施設が自施設の線量水準を見直すための参考基準。
- ・前回 (2020年版) よりも線量が低減された項目もあり、安全管理の浸透と技術進歩が反映された。
- ・国際的にも注目されており、アジア・アフリカ諸国との情報共有が進展中。

日本の診断参考レベル(2025年版)

https://j-rime.qst.go.jp/report/JapanDRLs2025_ja.pdf

(2025年9月5日アクセス可)

補遺

https://j-rime.qst.go.jp/report/JapanDRLs2025_addendum.pdf

(2025年9月5日アクセス可)